

女子大学卒業者の生活と意識—O女子大の場合—

第1報 世代別にみた就職状況の特徴

○喜多智子* 一棟宏子** 中川洋子** (*大阪城南女短大 **大阪樟蔭女大)

目的：本研究は、女性をめぐる社会的環境の変化のなかで、高等教育を受けた女子大学卒業者の就職状況や家庭外活動の実態と生活意識を分析し、世代別にその特徴を把握する。世代の違いがどのような局面に表れるか検討することで、女子教育の果たしてきた役割を考察する。本報では、世代別にみた就職状況の特徴と資格との関連について報告する。

方法：世代による生活と意識の違いを検討するため、O女子大学総卒業生14,588人のうち、60歳、50歳、40歳、30歳、25歳前後が調査対象となるよう学年を設定。各学年の卒業生数を勘案し、調査対象者を以下のように定め、郵送によるアンケート調査を実施した。昭和34年、44年、54年（各100人）、平成1年、6年（各200人）から計800人に調査票を配布、有効回収票は385件（有効回収率48%）であった。調査時期は96年6～7月

結果：①9割が職業経験をもち、現在5割が就職。就職経験や現在の就職率は、ともに若い世代ほど比率は高くなる。②初めての仕事は一般事務職41%、専門職25%、販売・サービス15%で、6割強が正社員。③4割が転職経験者。25歳前後では卒業後間がないため転職率は低いが、それ以外の世代では若いほど転職経験者が多い。主な転職理由は結婚、仕事内容の不適合、育児等。転職後はパートがふえる。④本人の年収は300万円未満が8割弱だが、世帯収入は800万円以上が約半数を占める。⑤在学中に得た資格は、教員免許（50%）、栄養士（食物出身の71%）、司書（10%）、幼稚園教諭（児童出身の87%）、保母（6%）、英検（7%）、ワープロ検定（4%）、秘書検定（10%）。幼稚園教諭と保母は7割程度が「役立った」と評価は高い。資格の有無による職種の違いはあまりない。